

## ◆2015年度第6回幹事会ミーティング議事録◆

2016年3月15日

記録者：湯井

日 時：2016年3月3日(木) 14:00～17:00

場 所：ルネッサなんば2F パーティールーム

参加者：

下出谷 良治(株式会社ネスト・ジャパン)      山本 晃大(山本化学工業株式会社)  
 恒吉 孝司(オルウィン株式会社)              浦川 健一(株式会社メビウスLink)  
 平林 英二(人と防災未来センター)              湯井 恵美子(府立支援学校PTA協議会OB会：事務局)  
 ※ゲスト参加：柳井 豪さま(株式会社ENT)、tsukuruより仲宗根さま

## 【議題】

①2月定例会振り返り(人と防災未来センター企画展関連イベント兼関西そなえ隊第12回定例会)  
 「本当に必要な減災用品とは？パーソナルな減災用品について考えるワークショップ」

湯井：

行政、防災関連企業の方から大変好評だった。第1部の防災企業の実演を交えたプレゼンが行われ、それを受ける形で第2部のワークショップが行われた。各自が要援護者(精神障害、高齢者、女性、妊産婦など)であったら非常時にどのように行動するかを考え、要援護者の立場を我がこととして想像できるワークショップだった。岩手や三重からの参加者もあり、さすがひとぼうのイベントになった。

浦川：

減災グッズの使い方を実演で見たのは分かりやすく良かった。特に明治のキューブタイプの粉ミルクは秀逸。ワークショップの条件設定(火事の設定だが大地震を見越したグループがあった)をしっかりとすべきだった。要援護者の立場で考える良い機会だった。

下出谷：

昼間の設定だったので行けなかった。健常者であってもケガをしたら要援護者になる。3時間コースのワークショップを定例会で行うことも良いのでは。

平林：

要援護者カードを配り、何が障がいになるのかを予め説明しておくという手法もある。3時間のワークショップも企画しそなえ隊のメニューにできる。

浦川：

企業の防災責任者は総務で知識の浅い場合も多い。訓練など企業の危機管理担当者に対するアプローチをやってはどうか。中小企業の決裁権のある人をターゲットとする。大手は時間がかかるが、グッズなどが必要になり問合せを受けるウェブが必要。

②2月28日(日)浜寺中学校 津波避難訓練イベントについて(ご報告：下出谷さん)

下出谷：

(株)ネスト・ジャパンとNPO法人くらしと生活環境を守る会が参加。津波に特化した訓練。昨年は大雨で参加者少なかったが、今回は200～300人参加。ツナガードへの興味強かった。山中さんは、ソーラー電池付きAEDとトイレとSOSボタンの2基で参加。それを街灯の延長のように置く提案。このような提案に参加しない企業が多いのは残念。もっと参加してほしい。

平林：

イベントには各社の判断が入る。そなえ隊が各社の商品を持っていける体制を作る方が効率は良い。何（商品、サービス）を持っていくかを決めていかなければならない。

下出谷：

それを、部会を作って部会(議題⑦参照)の中で行っていききたい。

浦川：

組織を組合にし、イベントには参加企業を割り当てる。協同組合だと横並びで同じ出資者という立場で割り振りをを行う。そなえ隊はオファーに対する義務を完遂しなければならない。関西だけでなく例えば名古屋など全国に広げて認知度を上げていく。明治のキューブミルク(2月24日のサンプル品)は面白い。

平林：

参加を強要する事業協同組合を作った場合、賛同する企業は少ないのでは？自分は、そなえ隊にコーディネートする力(コーディネートする部会)が必要だと思う。

浦川：

「割り当て」と表現したのは、オファーに対する参加企業がない場合などのあくまで最悪のケースを言ったのみ。

平林：

参加企業が集まりやすいシステムを作る。基本パッケージとして事前にある種のオファーに対応できるようなパッケージを作っておいて、その中から担当チームが選抜で行くような仕組み。それは事務局でも部会でもどちらが担うにしても、仕組みを立ち上げることが大切だと思う。

下出谷：

例えば、恒吉さん案(議題⑦参照)の「広報」部会がコーディネートして、負担が偏らないよう行っていくような環境にしたい。

浦川：

現在、そなえ隊に来るオファーは基本的に無償。本来有償で出展する企業にとっては大変魅力的。それがそなえ隊に所属するメリット。

③「実践で学ぶ防災セミナー&コラボ交流会」3月8日について(経過報告：下出谷さん)  
 日時：3月8日(火)18:30～  
 場所：大阪産業創造館6F 会議室 A・B  
 定例会・懇親会参加人数：各7名(3月2日現在)

平林：

3月3日現在、そなえ隊側の参加申込者9名。

仲宗根さん：

現在、tsukuru側は15名。参加者が劇的に増えなくとも企画に問題ない。講師の木村さんとも打ち合わせ、備品など確認した。当日の進行など下出谷さんと詰めていく。懇親会。はこの人数では貸し切りできない。懇親会は前日からキャンセル料が発生する。最終は7日午前中に下出谷さんと調整する。

下出谷：

そなえ隊の名簿を作成し、当日配布する。受付は湯井。名札は準備する。そなえ隊のチラシは柳井さんが印刷して

もらえる。資料ある人は17時半に持ち込む。アンケートはそれぞれが別の受付で配布する。その他、懇親会での段取りは考えてくる。

④あべのハルカス 縁活イベント「防災スゴロク」について(経過報告：湯井)

日時：3月19日(土)10時～16時

イベント内容：ハルカスの7階、8階、10階の街ステーションと空きスペースに21のブースを作り、30分程度で回れるスゴロクゲームを行う。各ブースは防災関連グッズや情報。

そなえ隊出展企業：プラス防災、Rccjapan 株式会社、株式会社ネスト・ジャパン、\*岩谷近畿株式会社、江崎グリコ株式会社、株式会社タカオカ (\*岩谷さんは条件が合わず不参加)

湯井：

子ども向けのイベント。スゴロクゲームを通じ、防災の知識を増やす。展示のみ。狭いスペースだがゲームで回ってくる子どもたち、保護者に宣伝活動を行う。30分は目安の時間。防災に縁遠い人たちに防災グッズをアピールする良い機会。ブースには数人で対応する。同業者がくるのでチラシ配布などそなえ隊の宣伝をする。詳細決まり次第湯井より情報提供する。

⑤4月定例会(4/27)について

企画担当：湯井

場所：レストランテコロナ(浦川さん)

テーマ：「被災者に寄り添うボランティアの現場力～東北の現場から～」(仮)

映像&講演：約1時間20分「現場で使えない防災用品、他」

ワークショップ：約30分「こんな時、あなたは？」

講演者：中嶋さま(ダッシュ隊大阪 代表理事)

湯井：

4月10日にダッシュ隊の5年間の振り返りイベントをするのでそなえ隊と共有できる。発災2日後の現場での生々しい写真(動画?要確認)があり、ご遺体も映っている。5年前を思い出してもらうための勉強会。

浦川：

ご遺体の映像がある場合は事前に告知をしておく必要がある。タイトルはリアルなものが良い。人数は40名ほど収容可能。備品(プロジェクター、マイクなど)はある。コネクタ(15ピン)必要。

平林：

音声があるかの確認をすること。告知は1か月前配信で行うので、それまでに文言を確認しておくこと。

⑥6月定例会(6/29)について

企画担当：下出谷さん(仮)

場所：未定

テーマ：「企業としての備え～帰宅困難者対策を考える～」(仮)

講演者：伊永さん(エクスプラス災害研究所 所長)

下出谷：

伊永さんからのご提案で具体化した。新大阪で帰宅困難者対策の業務を請け負われていて、帰宅困難者対策の現状を教えてください。4月の定例会で次回の案内を載せるように準備を進める。伊永さんは頼れる人になる。

平林：

差支えなければ伊永さんに隊員になって頂いた方が、今後のご提案なども取り組みやすい。

柳井：  
伊永さんは若い防災士を探している。

平林：  
そなえ隊で募集ができる。

湯井：  
そなえ隊でパッケージ(目的別に数社の企業を取りまとめたグループ)として整え伊永さんに提案しては。

⑦そなえ隊の今後の活動方針とヴィジョンについて

- 12月定例会のハーベスト分析
- 隊員及び参加企業(賛同者)についてのリスト作成とウェブ上公開について
- 社団化について(1月幹事会の宿題)意見交換
- 次年度幹事会について
- 運営体制を整えるための制度づくりの提案  
(幹事、事務局以外の隊員による積極的活動参加のあり方についての提案)

恒吉：  
理念に沿った実働のための部会を作ってはどうか。  
1) ビジネス活性化部会(共栄)：商品開発などの営業てき活動。特に下出谷さん、山本さんに頑張ってもらいたい。  
2) 教育部会(教育)：定例会、勉強会など教育機関としての活動  
3) 広報でつなぐ部会(協力)：そなえ隊関係企業間、行政とのつながりを持つための広報的活動

平林：  
恒吉さんはどの部会にかかわりたいか？できるところを無理なくかかわってもらえるのが良いと思う。

恒吉：  
広報。そなえ隊という組織が出来上がったなら行政に説明に行きたい。ウェブサイトに参加企業、その提供できるものを載せたサイトを整備したい。対行政、会員同士の仲介役に期待する。ウェブでなくて「カタログ」でもよい。他に、企業から新商品の検証などの依頼に対応できるような機能でマッチングを期待できるのでは。そなえ隊で新商品、新サービスの開発も。

浦川：  
そなえ隊として組織が架空。組織としての形を作らないと行政とはやっていけない。各社が出資して、特定事業協同組合を作ってはどうか。社団は登記だけでも11万の経費がかかる。組合は利益を目的としない共助の組合組織。防災に関する事業協同組合。まずは組織の枠を作ってから部会を作るのが順序だと思う。ひとぼうとの関わりをブランドとして利用すべき。

恒吉：  
組織化と同時並行で企業の情報整理(カタログ化)と部会の組成をすすめては。

下出谷：  
浦川さんのそなえ隊に期待している事は何か？

浦川：  
社会貢献。そこに現状とずれがある。他の参加企業は自社商品が売りたい。そなえ隊の発足も自社商品の販売促進だったはず。2年間やってきた実績は？

恒吉：

防災企業としての思いを集めて共感してくれる仲間を集め整備してきた2年間で、やっとこれからやりたいことを始める体制になったと認識している。勉強会などを重ね、この3年目にあたり実働を始める。勉強会は残していきたい。

浦川：

今は勉強会を通じた口コミでのオファーはあるが、今後もっと増やしたい。隊員にメリットを示すことが必要。カタログを作り全国に公開し出資者を募ることもできる。

恒吉：

現在、ウェブを作れるだけの資金もある。活動するにあたり部会の責任者、部会のリーダー会などの組成を考える。隊員を部会ごとに分け、事務局で組織化を進めてもらいたい。まずは部会組織化の絵を描いてもらいたい。事務局に教育、広報が集約される。組織化とウェブの作成。

下出谷：

柳井さんを次年度幹事に推薦する。部会のビジネスの部分で河内さんと一緒に関わってもらいたい。

⑧そなえ隊事務局より

- ・ 隊員から寄せられる募集、依頼事項等の情報収集、整理と配信について
- ・ 残金及び、1月2月の事務局経費についてルール作り
- ・ 事務局の所在地について
- ・ 幹事会開催の時間など

恒吉：

定例会も幹事会が夜の時間帯なら幹事を続けられる。

柳井：

幹事会は夜が良い。17時くらいから。

下出谷：

幹事の任期は3月末で終了し、4月に新幹事会が発足する。

平林：

4月の定例会時に事務局より新幹事会のアナウンスをする。幹事として会の方向性を決めることに責任と熱意をもって従事できる方を幹事に迎える。欠席は役割を全うしていない。提案したことは実行実現まで責任を負う。事務局に任せるのであればそれができる事務局の体制づくりをしてもらいたい。

浦川：

幹事会は意思決定機関なので、幹事の人数は決めるべき。決定は隊長、副隊長が決定するのが役割では。最終責任のある決定者が必要。

柳井：

幹事会で提案を作り、実行実現には幹事以外のメンバーに託しても良いと思うが、幹事の責任が重すぎるのでは。

平林：

困った時に隊長、副隊長に頼ったことはあるが、決定は幹事会が追うのではと思う。浦川さん、柳井さんの話を聞いて思うのは、幹事会は方向性について意見を聞く場で、その後は実務班がやっていくものだと思う。規約に「責任は幹事会全員で負う」とある。今現在の関係性で、何かあった場合に隊長一人に責任を負わずのは残念。今後、そのような責任を負う隊長が出てくれば任せても良いとは思う。

下出谷：

そなえ隊の発足は、ツナガードの販売について山本社長に相談した際、組織を作る提案をされた。最初、平林さん、谷さん、オルウィンさんとで立ち上げた。今は数字につながる動きをしていると思っている。早い方が良いがビジネスになればよい。自分が防災について全てが分かるわけではないので一人で意思決定するには自信がない。だが、心強い応援者が集まるこの組織を大切に今後もやっていきたい。

平林：

事務局で経費を使うことに対しては、責任は隊長にあるという方がスムーズだと思う。幹事会のご意見番。

山本：

事務に時給 1100 円を払えば 40 万ほどの貯蓄はすぐになくなる。そなえ隊のかかわる「事故」も深刻なものは考えにくいと思う。入札は企業名で行うので責任も各企業にある。劇的に隊員数の伸びのない現状で、決定権を隊長と副隊長にすれば他の隊員は面白くないのでは。むしろ、幹事だけではなく一般隊員が意見を言える場所が必要だと思う。

平林：

事務局をきちんと整え経費を払いつつ、実働班で活動しながら事務局にお金を流す仕組みを 1 年かけて作っていく時期だと思う。

下出谷：

事務局に時給を支払うことは良しとする。

◎その他

- ・8 月以降の定例会テーマ、講師案など

浦川：

「東北の現実」→「帰宅困難者対策」その後を時系列にシリーズ化してはどうか。「日常的に災害に備える」という趣旨で 8 月、10 月、12 月に設定してはどうか。「避難所」、「仮設住宅」など。講師としては BCP の山口氏はどうか。

下出谷：

ひとぼうの 0 次、1 次、2 次の備えのようなテーマを組んだら分かりやすい。1 2 月のワークショップの成果を動きとして示したい。

平林：

そなえ隊の方向性についてのまとめは近い将来幹事会で行いたい。

以上

添付資料：

12 回定例会アンケート結果集計